

美濃陶磁歴史館だより



美濃陶磁歴史館
(☎ 551245)

連続 うちんたあのお宝、なんやね？
コラム 第17回 遺跡を守り伝えるということ

～ 泉町久尻・国史跡元屋敷陶器窯跡 ～

泉町久尻の元屋敷陶器窯跡は、大窯3基（東1～3号窯）と連房式の登窯1基（元屋敷窯）からなる古窯跡群です。昭和42年に国史跡に指定、平成25年には発掘調査などで出土した製品および窯道具・窯材あわせて2431点が重要文化財に指定されました。

安土桃山時代（16世紀後半）に瀬戸の陶工加藤景光と4人の息子が開窯したと伝わり、江戸時代初頭（17世紀初頭）にかけて操業しました。当初は天目茶碗、小皿、擂鉢が生産の主体でしたが、「茶の湯」の流行とともに、大窯において瀬戸黒や黄瀬戸、志野といった茶陶生産が始まります。やがて江戸時代初頭になると、景光の長男景延が唐津から技術を導入して連房式登窯「元屋敷窯」を築きます。この元屋敷窯において、最盛期の織部が量産されました。

元屋敷陶器窯跡は、その歴史的重

要性はもちろんのこと、史跡公園としても広く親しまれてきた土岐市の誇る宝です。しかし、令和元年10月から令和3年5月にかけて生じた複数回の崖崩れにより、この貴重な宝の一部が失われる危機に直面していました。

早期の対策が強く望まれたため、令和3年7月から発掘調査を行い、10月に復旧工事を開始しました。最後に破損した復元窯と見学通路の補修を行って、令和4年3月に復旧工事は完了、4月から再び見学可能となりました。

遺跡はご先祖さまの残したかけがえのない遺産です。その遺産を守り、未来へ伝えていくためには、多くの人々の理解と協力が必要です。この機会にぜひ当史跡を訪れ、遺跡を守り伝えるということについて考えていただけたら幸いです。

補修完了後の復元窯（東1号窯）



復旧工事完了後の崖地



崖崩れの様子

ワークショップ参加者を募集します！ 土岐らしいミュージアムってどんなところ？

現在、美濃陶磁歴史館の老朽化などに伴い、新しい博物館を建てる計画を進めています。市民の皆さんと一緒に博物館づくりを進めるため、アイデアを出し合うワークショップを開催します。参加をお待ちしています！

※申込方法など詳細は本紙折込のチラシをご覧ください。

日時 6月18日(土)
午後1時～3時
場所 市役所1階
多目的スペース
※要事前申込

☎ 文化スポーツ課（内線356）